

1 「生活面に関わる内容」

(1) < 基本的生活習慣、規範意識 >

1 「朝食を毎日食べているか。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか。」という質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国・県より上回っている。

クロス集計結果から、肯定的に回答した児童生徒の群の各教科の平均正答率が大きく上回っている。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
朝食を毎日食べている。(小・中1)	R4	96.5	94.5	94.4	95.2	92.7	91.9
	R3	97.8	95.4	94.9	94.9	93.7	92.8
	R1	97.2	96.0	95.3	94.9	93.7	93.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 (小・中2)	R4	84.6	82.0	81.5	85.1	80.3	79.9
	R3	87.1	83.4	81.2	86.2	81.0	79.8
	R1	86.9	83.7	81.4	83.4	79.9	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている。 (小・中3)	R4	92.2	91.1	90.4	95.1	92.8	92.2
	R3	94.4	91.6	90.4	95.2	93.8	92.7
	R1	94.5	93.0	91.6	94.8	94.0	92.8

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

1 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」という質問について、「きちんと守っている。」と回答した児童生徒の割合は全国・県より大きく上回っている。

クロス集計の結果から、「きちんと守っている、だいたい守っている。」と回答した児童の各教科の平均正答率は、大きく上回っている。6つの選択肢のうち、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない。」と回答した児童生徒の平均正答率は、中学校の理科を除いた教科において最も高く、「守っていない。」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率が最も低かった。

2 「普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをするか、SNSや動画視聴などをしますか。」という質問についてのクロス集計では、6つの選択肢のうち、小学生では「全くしない、30分より少ない」と回答した児童の各教科の平均正答率が最も高い。中学生では「2時間より少ない」と回答した児童の各教科の平均正答率が有意に高い。

質問項目( )は質問番号	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか(小・中4)						
回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
きちんと守っている	R4	49.8	43.7	39.4	40.7	37.3	32.2
だいたい守っている	R4	26.0	30.6	32.1	35.4	37.6	37.3
あまり守っていない	R4	3.2	4.5	4.8	4.9	5.6	6.6
守っていない	R4	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.5
携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、約束はない	R4	9.4	9.8	11.2	14.5	14.8	18.2
携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない	R4	10.7	10.3	11.4	3.3	3.4	4.1

※ 単位は%

質問項目( )は質問番号	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をするか(小・中5)						
回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
4時間以上	R4	15.3	18.7	17.2	15.8	17.5	16.3
3時間以上、4時間より少ない	R4	13.6	15.1	13.5	15.5	14.3	13.5
2時間以上、3時間より少ない	R4	20.1	20.8	19.5	24.4	21.5	20.5
1時間以上、2時間より少ない	R4	26.1	25.1	25.9	21.0	21.0	21.0
1時間より少ない	R4	16.8	13.6	16.4	14.8	15.0	16.7
全くしない	R4	8.0	6.6	7.5	8.5	10.6	11.9

※ 単位は%

質問項目( )は質問番号	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴(携帯電話やスマホを使った学習・ゲーム時間を除)をするか(小・中6)						
回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
4時間以上	R4	8.5	11.5	10.9	13.2	15.5	15.6
3時間以上、4時間より少ない	R4	10.3	9.4	8.8	14.3	14.4	13.9
2時間以上、3時間より少ない	R4	13.7	14.0	12.8	24.1	23.2	22.5
1時間以上、2時間より少ない	R4	16.2	18.0	18.1	26.8	24.5	23.8
30分以上、1時間より少ない	R4	13.4	13.1	13.9	11.2	11.5	11.9
30分より少ない	R4	13.7	12.0	14.7	6.4	6.0	6.9

※ 単位は%

(2) <自尊感情、将来に関する意識>

1 自分自身に関する質問について

クロス集計の結果から「自分には、よいところがあるか。」という質問に対して、「当てはまる。」と回答した児童の各教科の平均正答率は、他の回答群より、大きく上回っており最も高い。「将来の夢や目標を持っているか。」の質問に対しては、肯定的回答群と平均正答率との相関は認められない。「自分でやると決めたことは、やり遂げようとしているか。」の質問に肯定的に回答した児童生徒の各教科の平均正答率は他の回答群より、上回っている。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。」という質問に対して、「当てはまる。」と回答した児童の各教科の平均正答率は、他の回答群より、上回っている。

2 いじめに関する質問について

クロス集計の結果から、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に対して肯定的に回答した児童は、他の回答群より、各教科の平均正答率が高く上回っている。中学校においては、国語にのみ同様の傾向がうかがえる。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
自分には、よいところがある。(小・中7)	R4	82.2	77.8	79.3	78.1	76.5	78.5
	R3	82.8	77.6	76.9	75.5	74.4	76.2
	R1	81.4	80.8	81.2	76.3	72.7	74.1
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(小・中8)	R4	88.2	86.5	87.1	86.3	86.5	86.6
	R3						
	R1						
将来の夢や目標を持っている。(小・中9)	R4	82.7	80.8	79.8	69.6	68.6	67.3
	R3	84.7	83.5	80.3	69.5	69.3	68.6
	R1	86.9	85.7	83.8	73.7	72.3	70.5
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。(小・中10)	R4	90.7	87.0	87.2	88.8	87.1	86.6
	R3	88.5	84.8	84.3	87.7	85.5	84.2
	R1						
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。(小・中11)	R4	76.2	72.4	72.5	72.2	66.8	67.1
	R3	77.0	71.9	70.9	69.9	66.5	65.9
	R1						
人が困っているときは、進んで助けている。(小・中12)	R4	91.2	89.8	88.9	89.3	88.3	88.4
	R3	91.1	89.4	88.7	90.9	89.0	88.5
	R1	90.8	88.9	87.9	88.4	87.7	85.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(小・中13)	R4	97.0	97.1	96.8	97.2	96.6	96.4
	R3	97.8	97.1	96.8	96.7	96.1	95.9
	R1	97.9	97.6	97.1	96.9	95.9	95.1
人の役に立つ人間になりたい。(小・中15)	R4	96.7	94.7	95.1	95.6	95.1	95.0
	R3	96.8	95.9	95.5	96.1	95.1	95.0
	R1	95.1	95.5	95.5	95.7	94.7	94.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

2 「学習面に関わる内容」

(1) <学習に対する関心・意欲・態度>

1 各教科の興味関心について

「〇〇科の勉強が好きだ。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国・県よりほぼ上回っている。中学校の理科では、興味関心や学びに対する自己有能感は、大変大きく向上している。

2 各教科の授業内容理解に関する設問への回答とのクロス集計について

「〇〇科の授業の内容はよく分かるか。」という質問に対し、「そう思う。」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率は、大きくまたは高く上回っている。

算数・数学の学習への【学びに向かう力】を問う質問(57~60)に対し、「そう思う。」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率は、高く上回っている。特に小学校と中学校の数学に関しては、際立っている。

理科の学習への【思考力、判断力等】を問う質問(64、65、67~69)に対し、「そう思う。」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率は、高く上回っている。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
国語の勉強が好きだ。(小・中49)	R4	64.8	60.3	59.2	64.9	64.8	61.9
	R3	61.1	60.2	58.4	62.6	63.1	60.8
	R1	70.7	68.4	64.2	64.1	65.5	61.7
国語の授業の内容がよく分かる。(小・中51)	R4	89.3	85.0	84.0	84.9	83.5	81.2
	R3	88.3	85.1	84.2	85.3	83.2	80.1
	R1	89.5	87.5	84.9	81.2	80.6	77.6
算数・数学の勉強が好きだ。(小・中53)	R4	64.2	60.7	62.5	54.3	55.7	58.1
	R3	71.5	66.1	67.8	57.5	55.4	59.1
	R1	69.3	67.0	68.6	58.6	56.6	57.9
算数・数学の授業の内容がよく分かる。(小・中55)	R4	86.5	81.2	81.2	76.4	74.5	76.2
	R3	86.2	83.2	84.6	74.0	72.4	74.6
	R1	86.1	83.4	83.5	77.6	73.4	73.9
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。(小・中57)	R4	74.6	70.1	69.3	52.5	48.7	47.3
	R3	80.2	75.4	73.9	54.7	51.3	50.6
	R1	80.5	78.3	76.5			
算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考え。(小・中58)	R4	83.6	79.9	80.4	77.9	75.5	75.2
	R3	86.1	81.8	82.7	77.4	76.1	75.8
	R1	84.7	82.1	82.0			
算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。(小・中59)	R4	78.5	75.7	76.8	73.5	69.7	70.2
	R3						
	R1	83.2	82.6	82.1			
算数・数学の授業で公式やままりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。(小・中60)	R4	88.8	85.7	85.7	82.7	81.2	79.6
	R3	92.4	88.7	89.0	84.4	84.2	83.5
	R1	87.5	85.5	84.0			

令和4年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

取扱注意

理科の勉強が好きだ。(小・中61)	R4	88.5	84.7	79.7	71.5	68.9	66.4
	H30	90.8	89.5	83.5	66.9	64.8	62.9
	H27	88.3	88.6	83.5	61.1	64.2	61.9
理科の授業の内容がよく分かる。(小・中63)	R4	94.7	91.2	88.5	82.7	76.5	75.2
	H30	95.1	93.9	89.4	74.5	70.4	70.0
	H27	92.6	92.1	87.9	67.4	67.6	66.8
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。(小・中64)	R4	78.2	72.3	67.9	60.3	57.2	52.7
	H30	77.2	73.1	64.7	49.4	50.1	45.4
	H27	80.1	79.0	69.3	51.9	52.7	46.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中65)	R4	83.1	79.4	77.2	67.6	65.9	61.5
	H30	82.0	79.6	72.9	60.4	60.3	55.7
	H27	82.7	81.9	74.5	56.6	59.2	54.3
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。(小・中67)	R4	82.7	79.7	78.0	72.2	69.1	64.5
	H30	81.3	78.7	75.2	61.7	60.4	58.5
	H27	77.6	79.5	75.3	60.9	61.8	55.0
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。(小・中68)	R4	91.4	87.0	84.9	83.4	83.4	78.9
	H30	88.7	86.5	81.8	80.6	75.7	72.3
	H27	85.9	84.8	80.4	73.0	74.2	67.2
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。(小・中69)	R4	80.7	75.6	72.2	75.2	71.6	68.1
	H30	77.9	73.8	68.1	66.4	61.7	59.0
	H27	73.5	73.4	67.1	60.3	60.8	55.0

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(2) 学び方(主体的・対話的で深い学び)に関する内容

- 1 これまでに受けた授業に関する以下の質問全てで、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県より上回っている。
- 2 これまでに受けた授業に関する質問のクロス集計について、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したか。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は、各教科においてきわめて大きく上回っている。「課題解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたか。」という質問に対しても、肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は、各教科においてきわめて大きく上回っている。情報活用能力を生かしたアウトプットを重視した授業デザインと児童生徒が主体的に取り組む課題解決型学習の重要性が裏付けられるデータである。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる」、「学んだことを生かしながら、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたか。」という質問に対しても、肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は、各教科において大きく上回っている。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。(小・中38)	R4	68.7	62.9	65.4	63.7	62.8	63.3
	R3	66.4	61.8	63.5	67.2	60.0	62.0
	R1	66.9	62.2	62.5	61.0	56.5	55.8
これまでに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいた。(小・中39)	R4	83.1	78.5	77.3	85.9	81.4	79.2
	R3	85.1	80.0	78.2	84.6	82.3	81.0
	R1	81.5	79.5	77.7	81.1	78.6	74.8
これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。(小・中40)	R4	81.0	74.4	72.2	77.7	71.6	67.4
	R3	86.6	69.3	67.2	63.7	61.6	59.5
R 3 は類似質問データ							
これまでに受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。(小・中41)	R4	74.7	68.4	68.4	75.8	69.8	67.2
	R3	72.5	69.3	67.2	63.7	61.6	59.5
これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。(小・中42)	R4	86.0	80.5	79.7	78.8	76.0	75.3
	R3	85.2	82.7	81.4	76.1	74.1	74.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

1 話し合い活動について

・「児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合が平均よりも多く、クロス集計においても各教科の平均正答率がきわめて上回っている。

2 総合的な学習の時間について

・「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国、県平均よりも多く、特に小学校では、10ポイント以上、全国、県平均を高く上回っている。クロス集計においても、肯定的に回答している児童生徒の各教科の平均正答率が大きく上回っている。

3 学級活動について

・「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思うか。」「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか。」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国、県平均より大きく上回っている。クロス集計においても、肯定的に回答している児童生徒の各教科の平均正答率が大きく上回っている。

4 道徳の授業について

・「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国、県平均より上回っている。クロス集計においても、肯定的に回答している児童生徒の各教科の平均正答率が大きく上回っている。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。(小・中43)	R4	82.6	79.7	80.1	81.2	78.5	78.7
	R3	84.3	79.0	78.8	80.6	77.2	77.8
	R1	75.4	74.5	74.1	76.4	73.1	72.8
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う。(小・中44)	R4	83.0	79.2	78.2	79.5	76.6	74.7
	R3	83.8	79.6	78.3	79.1	76.0	74.6
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。(小・中45)	R4	84.9	73.7	72.7	79.4	75.7	72.1
	R3	84.1	76.0	73.0	81.8	75.2	70.2
	R1	77.9	69.3	65.7	68.0	66.6	61.5
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。(小・中46)	R4	80.3	75.0	73.5	84.0	81.4	76.8
	R3	78.5	75.4	73.4	79.6	78.1	73.9
	R1	78.8	76.2	74.0	78.4	77.3	71.6
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(小・中47)	R4	78.5	74.6	73.8	78.4	74.9	71.7
	R3	78.3	74.7	73.5	74.5	72.7	69.8
	R1	79.2	76.7	73.4	71.7	69.2	65.6
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(小・小48)	R4	86.8	81.2	80.0	89.1	86.9	85.5
	R3	86.5	83.0	81.1	90.4	88.6	86.2
	R1	82.7	82.5	80.9	81.1	78.3	76.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(3) 読書に関する内容

1 読書時間について

平日、1日当たり30分以上読書をする児童の割合は、全国・県とほぼ同じであり、生徒の割合はやや下回っている。クロス集計の結果からは、小学校、中学校ともに読書量と各教科の平均正答率の相関は見受けられない。小学校の方が、読書時間との比例関係がやや見受けられる。

2 新聞を読むことについて

週に1~3回読む児童生徒の割合は、小学校では全国・県平均とほぼ同じ、中学校では全国・県より下回っている。クロス集計の結果からは、小学校、中学校ともに読書頻度と各教科の平均正答率の相関は見受けられない。

3 ICTを活用した授業について

「これまでに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用したか。」という質問に対し、「使用した。」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国・県を上回っているが、中学校では全国を上回り、県には下回っている。小・中学校とも、前回調査から劇的に増加した。クロス集計の結果からは、中学校での「ほぼ毎日使用している」と回答した群のみ、各教科の平均正答率との相関が見られた。

「ICT機器を、調べたり、他の友達と意見交換したり、まとめ発表するために使用している」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校とも全国・県をほぼ上回っている。クロス集計の結果からは、小学校、中学校ともに各教科の平均正答率との相関は見受けられない。こうした授業デザインに関する項目と活用頻度の相関は、今後も調査結果を注視していく。

「コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国・県を上回った。クロス集計からも、小学校において肯定的に回答した児童の各教科の平均正答率との相関が認められる。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
普段(平日)、1日当たり30分以上読書をする。(小・中23)	R4	36.4	36.3	36.4	26.6	28.5	27.3
	R3	34.6	37.5	37.4	27.2	30.4	28.9
新聞を週に1~3回程度読んでいる。(小・中25)	R4	14.0	14.1	13.8	7.1	8.5	9.4
	R3	17.2	15.5	14.8	8.3	8.9	10.4
	R1	17.7	18.4	19.0	11.0	11.2	12.7
昨年度までの授業でコンピュータなどのICTを週1回以上使用した。(小・中32)	R4	87.7	85.5	83.2	89.9	91.2	80.6
	R3	45.6	44.8	40.1	27.0	33.5	33.4
	R1	32.3	34.4	30.6	26.9	27.7	30.6
授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていたか。(小・中33)	R4	47.3	45.5	43.9	50.6	54.7	37.2
	R3	32.8	43.0	39.0	20.4	39.9	34.8
学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていたか。(小・中34)	R4	23.3	22.6	22.5	26.6	26.7	17.8
	R3	32.8	43.0	39.0	20.4	39.9	34.8
自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていたか。(小・中35)	R4	23.1	23.5	21.7	23.7	23.1	15.0
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。(小・中36)	R4	96.4	94.9	94.4	95.3	94.7	92.6
	R3	96.4	95.4	94.5	93.3	94.1	93.2

※ 単位は%「表記された時間や回数」、肯定的に回答した児童生徒の割合



1 家庭での蔵書冊数について

小、中学校ともに、家庭に「201冊～500冊」、「501冊以上」と回答した児童生徒の割合は、全国、県平均より下回ったが、「26冊～100冊」、「101冊～200冊」と回答した児童生徒はより全国、県平均上回っている。クロス集計では、小、中学校とも、家庭の蔵書数に比例して各教科の平均正答率が高くなる傾向がある。（「501冊」以上の選択群が最も高いわけではない。）クロス集計では、小、中学校とも、家庭に「201～500冊」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率が最も高くなっている。

質問項目( )は質問番号	あなたの家には、およそどれくらい本があるか。(雑誌、新聞、教科書は除く)(小・中24)							
	回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
			本市	本県	全国	本市	本県	全国
0～10冊	R4	11.1	14.3	11.6	14.1	15.5	14.6	
11～25冊	R4	21.9	21.2	18.9	22.5	21.6	19.6	
26～100冊	R4	36.6	34.1	34.1	33.1	33.2	32.1	
101～200冊	R4	18.5	16.7	19.2	17.4	15.8	17.3	
201～500冊	R4	8.9	9.9	11.6	9.5	10.4	12.1	
501冊以上	R4	2.9	3.6	4.5	3.4	3.4	4.1	

※ 単位は%

<地域>

1 地域の行事への参加について

「今住んでいる地域の行事に参加しているか。」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国・県と比較して上回っている。昨年度調査と比較すると、小学校、中学校ともに、下がっている。新型コロナウイルス感染症防止のために、地域の活動が制限されたり、参加自粛をしたりしたことが続いていると考えられる。クロス集計の結果から、小、中学校とも、肯定的に回答した児童生徒の各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

2 地域や社会をよくすることについて

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国・県と比較して上回っている。クロス集計の結果から、小、中学校とも、肯定的な回答群と児童生徒の各教科の平均正答率の相関は見られない。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。(小・中29)	R4	55.8	49.9	52.7	40.9	38.7	40.0
	R3	65.4	57.1	58.1	46.1	43.8	43.7
	R1	73.9	69.1	68.0	54.1	54.9	50.6
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。(小・中30)	R4	58.2	53.8	51.3	45.5	43.8	40.7
	R3	62.6	56.6	52.4	47.4	46.5	43.8
	R1	63.0	58.8	54.5	43.1	42.1	39.4

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

(4) 家庭学習 > ※ 塾での学習や家庭教師との学習時間を含む。

1 計画を立てて家庭学習を行っているかについて

「計画を立てて家庭学習を行っている」児童生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回っている。クロス集計の結果からも、肯定的に回答している群の各教科の平均正答率は、高くなっている。

2 平日、休日に1日当たりどのくらいの時間、勉強をするかについて

平日、休日とも「1日当たり1時間以上勉強をしている。」と回答した割合は、小学校において全国・県と比較すると大きく上回っている。中学校においては全国・県と比較するとほぼ同じか、上回っている。クロス集計の結果から、小学校では各教科の平均正答率は、勉強した時間に比例して高くなっていることがわかる。中学校では、各教科の平均正答率は、勉強した時間に比例しているとは言えない。平日「3時間以上」、休日「4時間以上」勉強していると回答した群より、平日「2～3時間」、休日「3～4時間」勉強していると回答した群の方が正答率が有意に高い。国語では平日「30分～1時間」勉強したと回答した群の方が、「1～2時間」、「3時間以上」と回答した群より平均正答率が高いなど、勉強「時間(量)」だけでなく「質(内容)」に左右されることが伺える。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
家で自分で計画を立てて勉強している。 (小・中20)	R4	79.8	77.7	71.1	66.8	64.2	58.5
	R3	81.7	79.6	74.0	71.5	68.5	63.5
	R1	81.9	79.3	71.5	61.1	56.7	50.4
普段(平日)、1日当たり1時間以上勉強をする。 (小・中21)(学習塾、家庭教師、インターネットで学ぶ時間を含む)	R4	69.9	63.7	59.4	72.6	71.3	69.5
	R3	70.3	66.0	62.5	80.9	77.0	75.9
	R1	74.3	69.4	66.1	72.1	70.9	69.8
学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。 (小・中22)(学習塾、家庭教師、インターネットで学ぶ時間を含む)	R4	71.0	67.0	56.1	76.2	77.1	70.8
	R3	77.5	73.4	61.0	88.3	83.9	77.6

※ 単位は%「表記された時間や回数」、肯定的に回答した児童生徒の割合

(5) その他 <学校生活>

1 魅力ある学校づくりとの関連について

・「学校に行くのは楽しいか。」という質問に対し、小学校では、肯定的に回答した児童の割合は全国・県と比較して上回っている。中学校では、肯定的に回答した生徒は全国、県平均とほぼ同様の結果である。クロス集計の結果から、児童生徒とも肯定的に回答した群の各教科の平均正答率が高い。中学校に関しては、「当てはまる。」と回答した群より、「どちらかと言えば、当てはまる。」と回答した群の各教科の平均正答率が高い、ということが言える。

・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国・県平均と比較して大きく上回っている。クロス集計の結果でも、児童生徒とも肯定的に回答した群の各教科の平均正答率が高い。

・「友達と協力するのは楽しいと思うか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県とほぼ同様の結果である。クロス集計の結果から、肯定的に回答した児童生徒の各教科の平均正答率が高い。細かく見ると、中学校では、「当てはまる」と回答した群より、「どちらかと言えば、当てはまる。」と回答した群の各教科の平均正答率が最も高かった。中学校に関しては、自分自身のことを問われる問いに対して、他との関わりを問われる問いの方が、各教科の平均正答率との相関がない傾向が見られる。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
学校に行くのは楽しいと思う。(小・中16)	R4	89.2	87.2	85.4	82.1	82.3	82.9
	R3	88.5	84.8	83.4	80.6	80.0	81.1
	R1	86.7	87.5	85.8	84.6	83.0	81.9
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(小・中17)	R4	81.2	74.6	73.5	81.2	77.1	76.9
	R3	77.8	71.6	70.1	74.0	73.4	74.7
友達と協力するのは楽しいと思う。(小・中18)	R4	94.6	94.2	94.0	93.8	93.6	93.7
	R3	95.6	94.5	93.9	93.8	93.1	93.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

1 ICTを活用した学習状況

児童・生徒の割合(%)

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度に、大型提示装置(プロジェクタ、電子黒板等)のICTを活用した授業を、1クラス当たり週1回以上実施した。(小56・中54)	R4	100.0	98.6	95.8	100.0	95.6	87.7
	R3	33.4	83.9	86.6	87.5	91.9	87.8
	R1	45.0	80.0	80.8	55.6	85.8	80.8
前年度に、一人一人に配備されたタブレット等のICT機器を活用した授業を、週1回以上実施した。(小59・中57)	R4	100.0	98.6	95.8	100.0	96.1	81.2
	R3						
	R1						
前年度に、自分で調べる場面では、児童一人一人に配備されたICT機器を週1回以上使用した。(小60・中58)	R4	94.4	95.2	92.2	100.0	95.6	87.6
	R3						
	R1						
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器を週1回以上使用した。(小61・中59)	R4	88.9	79.5	71.6	87.5	89.1	73.8
	R3						
	R1						
教職員と児童生徒がやりとりをする場面に、ICT機器を週1回以上使用した。(小62・中60)	R4	88.9	81.2	72.1	75.0	84.3	70.8
	R3	33.3	52.1	44.7	0.0	45.5	41.5
	R1						
児童生徒同士がやりとりをする場面で、ICT機器を週1回以上使用した。(小63・中61)	R4	72.2	69.2	59.1	62.5	76.4	55.4
	R3	27.8	42.2	30.1	12.5	37.4	25.8
	R1						
教職員と家庭との間の連絡に、ICT機器を活用した。(小65・中63)※教職員間の連絡(R3)	R4	83.4	70.5	50.3	87.5	93.4	85.3
	R3	72.2	74.0	78.1	75.0	74.3	80.6
	R1						
タブレット端末をどの程度家庭で利用できるようにしていたか。「毎日、時々と回答した割合」(小66・中64)	R4	55.6	70.3	66.9	87.5	68.6	61.8
	R3						
	R1						
教員は、学習履歴(ステップ)をはじめとした様々な教育データを児童生徒の状況に応じた指導に活用週1回以上使用した。(小67-2・中65-2)	R4	27.8	44.4	32.4	37.5	40.6	22.2
	R3	44.4	42.2	43.9	37.5	44.1	39.1
	R1						
児童の特性・学習進度等に応じた指導にICT機器を週1回以上使用した。(小67-3・中65-3)※児童生徒が1人で活用する場面(R3)	R4	55.5	59.6	48.6	50.0	57.6	35.3
	R3	61.1	81.5	74.6	62.5	72.1	62.6
	R1						

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

2 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況

児童・生徒の割合(%)

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
教員が授業で問題を抱えている場合、率先して学期に数回以上対応したか。(小・中12)※学級運営の状況や課題を全教職員で共有(R3)	R4	83.3	92.8	90.8	62.5	85.6	81.4
	R3	94.5	98.9	98.7	100.0	100.0	98.0
	R1						
教員が学級の問題を抱えている場合、学期に数回以上ともに問題解決に当たったか。(小・中13)※学級運営の状況や課題を全教職員で共有(R3)	R4	94.5	96.0	94.8	87.5	92.5	87.4
	R3	94.5	98.9	98.7	100.0	100.0	98.0
	R1						
学校として、校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいる。(小・中14)	R4	100.0	98.2	95.0	100.0	96.5	94.3
	R3	94.4	99.4	97.5	100.0	99.5	96.4
	R1	100.0	99.7	98.5	100.0	99.6	97.8
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している。(小・中16)	R4	94.4	94.5	94.8	100.0	97.0	91.3
	R3	94.4	95.3	94.4	100.0	95.5	90.6
	R1						
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。(小・中17)	R4	100.0	97.6	94.2	87.5	97.8	93.3
	R3	94.4	97.4	93.6	100.0	97.3	92.7
	R1	100.0	99.2	95.4	100.0	99.1	93.4
指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている(小・中18)	R4	100.0	93.2	92.3	75.0	86.9	82.3
	R3	94.5	95.4	94.2	100.0	87.9	84.6
	R1	100.0	97.3	96.4	100.0	92.5	86.9

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

児童・生徒の割合 (%)

前年度の授業に関する質問のクロス集計について、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。」、「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。」、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。」、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」という質問に対して、肯定的に回答した学校の平均正答率は、各教科とも高い傾向がある。→各教科や学級活動での話し合い活動の中で、根拠をもって意見を伝える、主張する(外化)、聴いて返答する、自己の思考過程に取り込む(内化)を基盤とする学習過程への授業改善(授業デザイン)を進めることが大切であることを示唆している。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。(小・中23)	R4	83.4	87.7	87.2	87.5	92.1	87.9
	R3	94.5	86.9	85.3	100.0	88.7	86.0
	R1	80.0	92.7	85.5	100.0	92.0	82.6
児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。(小・中24)	R4	83.3	74.9	75.1	75.0	85.2	80.7
	R3	72.2	66.6	68.3	100.0	74.8	75.6
	R1						
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。(小・中25)	R4	72.3	85.2	83.8	87.5	89.6	87.3
	R3	83.4	82.7	82.4	100.0	86.5	86.6
	R1						
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(小・中26)	R4	88.9	81.5	80.9	87.5	88.2	86.2
	R3	72.3	75.7	75.8	100.0	81.6	83.6
	R1						
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。(小・中31)	R4	94.5	86.9	83.4	75.0	80.3	76.6
	R3	100.0	90.8	89.9	100.0	95.4	95.2
	R1	95.0	92.2	84.7	100.0	89.3	77.9

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

4 生徒指導等

児童・生徒の割合 (%)

前年度の授業に関する質問のクロス集計について、「授業中の私語が少なく、落ち着いている。」という質問に対して、肯定的に回答した学校の平均正答率は、各教科に高い傾向がある。→学習規律を基盤として、授業展開や授業改善を進めることが有効であることを示唆している。幼小中と継続的に育成している社会情動的スキル(非認知能力)は、変化する社会を生きていく上で重要な力と記されている(学校教育指導方針等)。

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。(小・中7)	R4	88.9	87.6	87.2	100.0	97.4	95.6
	R3	88.9	89.9	88.5	100.0	96.4	96.0
	R1	70.0	90.1	87.7	100.0	94.7	94.1

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

5 家庭や地域との連携等

児童・生徒の割合 (%)

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている。(小73・中71)	R4	94.5	91.3	82.0	62.5	85.5	79.7
	R3	94.5	90.8	85.7	100.0	90.1	87.2
	R1	100.0	94.2	89.6	100.0	94.7	86.4

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

6 小学校教育と中学校教育の連携

児童・生徒の割合 (%)

質問項目( )は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度までに、近隣の中学校(小学校)等と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。(小69・中67)	R4	94.5	91.3	82.0	62.5	67.2	61.1
	R3	50.0	70.1	59.1	75.0	70.7	65.0
	R1	80.0	82.6	65.0	88.9	84.0	68.0

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合